

033 菅平牧場畜産農業協同組合文書と目録作成について

1 菅平牧場畜産農業協同組合が正式名称であるが、史料に貼付したラベルは「菅平牧場畜産農協」と省略してある。同事務所は、須坂市墨坂南4丁目の4に所在する。

牛馬の放牧地「菅平牧場」は、須坂市の南東部に隣接する上田市の根子岳と四阿山の南麓、標高1400～1900mの間に開ける“十ノ原”地籍を中心とした通称菅平高原に開設されている。

牧場開設は明治16年(1883)、すでに128年の歴史を経過している。組合員が上高井郡を中心とし善光寺平一円にわたっていたので、菅平高原が東信地方にありながら「北信牧場」と名づけられたものである。

2 市内豊丘地区は、灰野牛とか高井牛という銘柄をもつ乳牛生産の発祥の里である。明治6年(1873)灰野村の坂田近助が長野町の牛乳搾乳業者より洋種牝牛を購入して繁殖を図ったことにはじまるとされる。

その後、市川佐次右衛門、羽生田利助・坂田三代作などが中心となり「灰野牧畜改良会社」を設立して、破風高原に50町歩の乳山牧場を開き、春秋2回の牛馬市場を開いた。明治16年には菅平の官有地200町歩を借り受けて放牧をしたのが北信牧場のはじまりで、明治18年には組織の全郡的拡大が図られ「上高井郡産牛馬組合」と改称された。70人の組合員が明治21年には200人、同31年には710人にまで増加した。

牧場利用も急激に伸び、明治32年には牧場面積を1000町歩に拡大申請し、許可を得ることができ、これを機に「北信産牛馬組合」と再度改称し組織の整備と拡充を図った。明治40年に牧場を含めた菅平高原が、陸軍の軍事演習地にする運動が起こり、牧場組合と猛烈な競り合いになった。組合は金1万円で落札し、全域2198.8町歩の払い下げを受け組合所有となった。このとき牧場利用度を高めようと「北信畜産組合」と改称した。

放牧頭数は明治30年をピークに減少した。牛が結核になり廃牛せざるをえなかったことで飼育農家の畜産熱が低調になった。その後昭和の農村恐慌につづく戦争により牧場経営は困難となり、昭和11年から牧場の一部を切り売りした。現在は1500町歩ほどになったが、牧場としては県下第1の面積を誇っている。

昭和10年(1935)軍馬の保護育成のため上高井乗馬倶楽部が、鍛錬場(競馬塚)を北信畜産組合の援助によって屋部入河原地籍に誕生した。また昭和13年、灰野金田より須坂の上高井地方事務所内へ組合を移転した。昭和18年「北信牧場牧野組合」と改称したが、上高井郡内の関係者が中心であった。これまで事務所は灰野金田地籍の旧農協に開設し、昭和30年に牧場事務所を郡役所から須坂市屋部町入河原地籍の競馬場・家畜の種付け場に移転した。これより前昭和23年組合法改正により「菅平牧場畜産農業協同組合」となって現在に至っている。戦後は、放牧事業のほか、ゴルフ場・別荘地分譲、スキー場開発など観光事業も併せて行われている。

3 「菅平牧場畜産農業協同組合」は、発祥以来幾多の改称を重ねながら130年に近い歴史

を刻んできた。ここでは組合の文書史料を、整理しながら「菅平牧場畜産農協文書目録」として作成する。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「033」に位置付け、史料番号は「033-1」から開始し、整理ラベルを添付した。

史料のほとんどは菅平牧場畜産農業協同組合になってからのもので、明治・大正期の史料は少なかった。しかし、『菅平牧場百年史』が昭和 58 年に刊行されており、その際に収集されたコピー文書で、明治期のものもあり、これらも目録に登録した。ほかに、地図類は別枠として、原則として時系列で目録化した。

総史料番号 750 点 (史料番号 683 + 枝番号 67)

史料総点数 814 点

* 枝番号②③等は追加挿入史料

4、本史料は、権利証関係書類を除き、市誌編さん室に寄贈いただいた。本目録が、菅平牧場、畜産関係者をはじめ、須坂市民ほか多くの地域研究者によって活用されることを願ってやまない。

5、本史料目録は、菅平牧場畜産農業協同組合のご理解・ご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が作成した。

青木廣安

(編さん担当青木廣安・丸山文雄)

平成 23 年 (2011) 6 月 8 日

須坂市誌編さん室